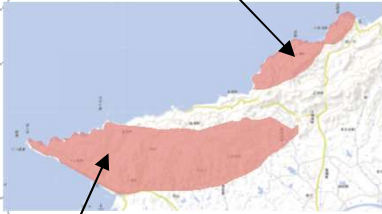


地質サイトカード

カードNo.	A-①-7	通しNo.	7	作成日	2025/4/28
サイト名	こいづ うっぱるい さでいごそう 小伊津・十六島の砂泥互層				
基本情報	エリア	島根半島 探訪サイト			 小伊津エリア 十六島エリア
	区分	☒ 地質・地形	☒ 生態	☒ 文化	
	利用価値	☒ 科学	☒ 教育	☐ 観光・ツアー	
	所在地	出雲市小伊津町、十六島町			
	アクセス	山陰道 宍道ICから約25km、約35分。			
	周辺施設	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☐ 観光施設()			
	看板整備	小伊津海岸にジオパーク解説看板3枚設置			
	留意点	11月～3月末まで海苔場のため立ち入り禁止			
保護・保全	法規制・関連団体等				
	保全メモ				
サイトの解説	みどころ	島根半島の海食崖では最大級。海食崖全面に互層が露出し、下端には小規模な波食棚を伴っている。			
	地質・地形	小伊津町から十六島町の海岸にみられる平坦な礫は、砂岩層と泥岩層の繰り返しにより見事な縞模様を示している。この地層は、約1400～1500万年前の深海で堆積したもので、一般に洗濯岩(マイクロケスタ)とも呼ばれている。灰色の部分が砂岩で突き出し、黒や黒灰色をした部分が泥岩で凹んでいる。このような地層は、海底斜面の崩壊が海底地すべりを起こし、それによって生じた混濁流(または乱泥流)や海底土石流と呼ばれる濁り水の流れて運ばれた砂や泥が、海底扇状地に堆積してできたものである。一般的にタービダイトとも呼ばれている。濁り水の中では粒子の大きな砂が速く沈み、その上に細粒の粘土が堆積する。この混濁流や海底土石流がくり返され、できた地層がやがて隆起し、陸上での侵食作用を受けて、縞々の波食棚になったものである。			
	歴史・文化 生物・生態 等	十六島といえば、岩海苔の十六島海苔が有名である。十六島では砂岩層の厚さが1mを超す単層が多く、他の場所と比べても厚い。また、長石類や岩石片からなる構成粒子も大きさが揃っている。そのため、岩海苔は採りやすく、海苔が乾燥すると剥がしやすい。十六島は地質学的に見ると、海苔場としての条件が適した場所といえる。 周辺の釜浦海岸には、特定植物群落である「釜浦海岸のホソバワダン群落」がある。			
写真・図等	 				
参考文献	島根の地形・景観・奇岩				